



BEACH WRESTLING
WORLD SERIES

RULES

*THE WORLD CHAMPIONSHIPS
OF BEACH WRESTLING*



UNITED WORLD
WRESTLING

目次

第1章：一般規定

- 第1条－理念と基本方針
- 第2条－目的
- 第3条－ルールの適用とUWWライセンス

第2章：競技構造

- 第4条－年齢および体重区分
- 第5条－選手の服装と外見
- 第6条－競技エリア

第3章：競技手順

- 第7条－競技方式
- 第8条－計量および医療検査
- 第9条－組合せ抽選

第4章：試合について

- 第10条－試合時間と基本ルール
- 第11条－呼び出しと開始手順
- 第12条－開始・再開ポジション
- 第13条－技の得点評価
- 第14条－負傷および出血対応
- 第15条－試合の中断
- 第16条－試合の終了
- 第17条－勝利の種類（分類ポイント）
- 第18条－チャレンジ制度

第5章：反則行為

- 第19条－消極的レスリングおよび反則技

第6章：審判団

- 第20条－構成
- 第21条－服装
- 第22条－全般的な任務
- 第23条－主審
- 第24条－技術記録員

第7章：医療体制

- 第25条－アンチ・ドーピングおよび衛生基準

最終規定

付録

- 付録1－組合せと競技方式
- 付録2－競技スケジュール
- 付録3－他の年齢層と競技方式

第1章：一般規定

第1条－理念と基本方針

UWW（世界レスリング連盟）はその憲章に基づき、ビーチレスリングをすべてのレスリングスタイルの一部として認めています。この競技は、世界中で文化的・社会的価値を広め、現代レスリングの基礎となる伝統的な世界遺産を守る、教育的かつ普及を目的とした競技として位置づけられています。

ビーチレスリング（砂浜で行う伝統的なレスリング）は、世界各地で多様な形で存在しており、それぞれが国際的な注目に値します。しかし、各国・地域の選手が公式大会に参加するには、共通のルールが必要不可欠です。

現在採用されているルールは、主要なビーチレスリングのスタイルを統一し、観客やメディアにとって理解しやすく、審判にとっても判断しやすい競技制度を提供することを目的としています。

「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」は、競技の体系化と普及を目的に、マルチスポーツ大会での正式採用を目指してUWWが創設しました。

第2条－目的

本ルールは、「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」の運営と普及を進めるための枠組みを定め、以下の具体的な目的を持ちます：

- 競技形式、勝敗の決定方法、技術点、ペナルティ、失格などの制度を確立すること。
- 試合の実施に必要な実務的・技術的条件を定義・明確化すること。
- 技や行動に対する採点基準を定めること。
- 禁止事項や反則行為を列挙すること。
- 審判団の技術的な責任範囲を明確にすること。

第3条－ルールの適用とUWWライセンス

本書で定められたルールは、UWWが公認するすべての「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」大会に適用されます。これにより選手の安全が確保され、競技の健全な発展が促されます。

また、これらのルールは、UWWが公認するすべてのビーチレスリング大会にも適用されます。

「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」の公認大会に出場するには、すべての選手がUWWライセンスを取得する必要があります。このライセンスには、UWWが提供する保険も含まれており、すべての公認大会に適用されます。

第2章：競技構造

第4条－年齢および体重区分

すべての出場選手は、年齢および国籍を証明するためにパスポートを提示しなければなりません。各国のレスリング連盟は、1つの体重カテゴリーにつき最大3名の選手を登録できます。

※ただし、トーナメントの枠が埋まらない場合に限り、UWW会長の特別な許可により、同じ階級への追加出場が認められることがあります。

「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」は、以下の年齢カテゴリーで実施されます：

- **シニア**：20歳以上（※18歳でも、医師の診断書があれば出場可能）
- **女子**：50kg、60kg、70kg、+70kg
- **男子**：70kg、80kg、90kg、+90kg

※その他の大会における年齢区分・体重カテゴリーについては、「付録3」を参照してください。

第5条－選手の服装と外見

「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」のすべての公認大会において、選手はUWWが定めた「ユニフォームガイドライン」に従う必要があります。このガイドラインは、ルールと規定の範囲内での創造的なデザインを可能にすることを目的としています。

【遵守の責任】

UWW主催のすべての「ビーチレスリング・ワールドシリーズ」大会において、各国レスリング連盟は、自国の選手団が使用するすべての物品（ユニフォーム等）が本規定に適合していることを保証する責任を負います。

【違反について】

計量時、審判は選手の服装がユニフォームガイドラインに適合しているかを確認します。基準を満たしていない場合は警告が与えられ、それでも改善されなかった場合には、大会終了後に所属連盟に罰金が科され、選手は出場できません。

また、試合用の正しいユニフォームを着用せずにコールルームに現れた場合は、最大2分間の是正時間が与えられます。その時間内に服装が基準に達しない場合、選手は不戦敗（試合に敗北した扱い）となります。

禁止事項：

以下の行為はすべて禁止されています：

- 他国の略称やエンブレムを身に着けること
- 身体に油分や粘着性のある物質を塗布すること
- 試合開始前に汗をかいた状態でコールルームに入室すること
- 指・手首・腕・足首に包帯を巻くこと（※負傷時および医師の指示がある場合を除く。その際は、弾性ストラップで包帯を覆うこと）
- 相手を傷つける可能性のあるもの（指輪、ブレスレット、義肢、ピアスなど）を身に着けること
- 女性選手によるワイヤー入りブラジャーの着用

身だしなみ・衛生に関する要件：

- 手足の爪は短く整えられ、尖ってはならない
- 長髪の選手は、髪を束ねるかポニーテールにすること
- 髪や肌に油分・粘着性の物質を付けず、清潔な状態で試合に臨むこと
- 試合中、審判の判断により体をタオルで拭くよう指示される場合がある

国名略称（COUNTRY'S ABBREVIATION）

選手は、自国の略称をコンペティションショーツまたは水着に明確に表示しなければなりません。

ウェアへの広告（ADVERTISING ON CLOTHING）

ユニフォームにはスポンサー名やロゴを表示することが可能ですが、ユニフォームの色や国名略称の視認性を妨げてはなりません。

シューズについて（SHOES）

すべてのビーチレスリングスタイルにおいてシューズの着用は禁止されており、選手は裸足で試合を行わなければなりません。

外見と衛生（APPEARANCE AND HYGIENE）

- 手首・腕・足首への包帯の着用は、負傷時または医師の指示がある場合を除き禁止されています。
- ネックレス、ブレスレット、足首飾り、トゥリング、指輪、ピアス類、義肢など、相手にけがをさせる

おそれのある物の着用は一切禁止されています。

- 選手の手指および足の爪は、きちんと整えられ、鋭利であってはなりません。
- 髪が長い選手は、髪を束ねるかポニーテールにしなければなりません。
- 選手は身なりを整え、髪や肌には油分、粘着性、またはべたつきのある物質が付着していない清潔な状態であることが求められます。

第6条－競技エリア

UWW が公認するすべての大会は、直径7メートルのリングで行われます。このリングは、幅8～10センチのコントラストのある色のリボンで縁取りされ、金属部品を含んではなりません。また、競技エリアは、30センチメートル以上の厚さで、石や貝殻、その他の異物を含まない細かい砂で満たされていることが求められます。

第3章：競技手順

第7条－競技方式

UWW ビーチレスリング・ワールドシリーズでは、各体重カテゴリーの理想的な出場人数は24名です。

出場人数別の対戦方式：

6名未満：1グループによるノルディック方式（総当たり戦）で実施され、決勝戦は行わず、グループ内順位がそのまま最終順位となる。

6名または7名：3～4名ずつ2グループに分けてノルディック方式で実施。各グループの上位2名が準決勝へ進出。

8名：4名ずつの2グループでノルディック方式を実施。各グループの上位2名が準決勝へ進出。

準決勝の組み合わせ：- グループ A1 位 vs グループ B2 位 / グループ B1 位 vs グループ A2 位

12名：4名ずつの3グループに分けてノルディック方式で実施。各グループ1位の選手+2位の中で最も成績が良い1名が準決勝へ進出。

準決勝の組み合わせ：- グループ A1 位 vs 最優秀 2 位 / グループ B1 位 vs グループ C1 位

※最優秀 2 位がグループ A の場合：グループ A1 位 vs グループ C1 位 / グループ B1 位 vs 最優秀 2 位

16名：4名ずつの4グループでノルディック方式。各グループ上位2名が準々決勝へ進出。

20名：4名ずつの5グループでノルディック方式。各グループ1位の選手+2位の中で成績上位3名が準々決勝へ進出。

24名：4名ずつの6グループでノルディック方式。各グループ1位の選手+2位の中で成績上位2名が準々決勝へ進出。

出場人数が中途半端な場合：トーナメント構成が理想の人数（8・12・16・20・24）に満たない場合、下位ランクの選手（または抽選で高い番号を引いた選手）によるノックアウト方式の予選を実施。

・24名を超えるエントリーがあり、かつ上位ランキング選手が24名に満たない場合には、UWW のビーチレスリング・ワールドシリーズ競技運営チームの監督のもと、開催国が予選大会を行って本戦出場者24名を決定します。上位24名のランクが明確な場合は、そのまま上位24名が出場します。

・**3位決定戦**：いずれの方式においても、準決勝敗退者同士による3位決定戦が行われます。

順位決定基準（RANKING CRITERIA）

グループ内順位は勝利数によって決まります。同数の場合、以下の優先順で決定：

1. 勝ち点の多さ
2. 技術ポイント（テクニカルポイント）の多さ
3. 技術ポイントの失点が少ない選手
4. 計量時の体重（軽い方を上位とする）
5. 抽選、またはランク番号の低い選手

※この基準は、“最優秀2位”の選出にも適用されます。

- 最終順位は「勝利数」を最優先とし、それ以外の要素で順位を決定。
- ノックアウトステージに進出した選手は、グループ敗退者より上位にランクされる。
- ノックアウト予選で敗退した選手は、グループ戦参加者より下位にランクされます。

対戦方式や組み合わせの詳細は付録1に記載されています。

大会プログラムの詳細は付録2に記載されていますが、必要に応じてUWWビーチレスリング・ワールドシリーズ競技運営チームが変更することがあります。

第8条－計量および医療検査

計量は競技当日の2時間前に30分間の枠で実施され、これは大会の両日ともに適用されます。選手は、UWWライセンスおよびアクレディテーション（認定証）を提示し、計量を担当する審判に提出しなければなりません。選手は、競技用のユニフォーム（ショーツまたは下着）を着用して計量を受け、公式な計量時間内であれば、体重計で何度でも確認することが可能です。なお、UWW公認大会においては、体重の許容誤差（オーバー）は一切認められません。ただし、大会特有の情報に明記されている場合はこの限りではありません。選手の正確な体重は、審判団が計量リストに審判団によって記録しなければなりません。

医学検査（Medical Check）について

医学検査は、大会初日の計量と同時に実施されます。

計量不合格の場合

選手が1回目および2回目の計量に失格した場合、その選手は最下位扱いとなり、順位なし（順位表に含まれない）となります。

注記：競技が1日で完結するカテゴリーの場合は、計量も1回のみ実施されます。

第9条－組合せ抽選

原則として、抽選（ドロー）は行われません。選手の組み合わせは、ビーチレスリング・ワールドシリーズのランキングに基づくシード制により決定されます。

大会開催時点のランキングが使用され、シード選手が決定されます。

シードされていない選手が参加する場合には、計量終了後に大会運営チームが自動かつランダムな抽選を実施します。この際、審判は抽選番号を計量リストに記入しなければなりません。

第4章：試合について

第10条－試合時間と基本ルール

すべての年齢カテゴリーにおいて試合時間は1ピリオド3分間で行われます。

ビーチレスリングは立ち姿勢のみで行う競技で、すべての動作において脚の使用は認められます。

第11条－呼び出しと試合開始

両選手の名前は、大きくはっきりとした声で呼び出されます。選手の呼び出しは、30秒以上の間隔を空けて3回行われます。3回目の呼び出し後も選手がコールルームに現れなかった場合、その選手は失格となり、試合は不戦敗となります。

選手は自分の名前が呼ばれたら、指定された赤または青の位置に立ち、コールルームマネージャーの指示を待たなければなりません。コールルームマネージャーは以下を確認します：

- ・ 競技ユニフォームの規定遵守
- ・ 体に汗、油分、または粘着性の物質が付着していないこと

検査が完了すると、選手は試合場（FOP）へ進み、中央審判と握手し、審判のホイッスルを合図に試合が開始されます。

計量後、UWWドクターまたは大会ドクターの診断書なしに、かつ大会事務局に連絡することなく出場しなかった場合、その選手は不戦敗となり、試合から除外され、順位なし（ランク外）として扱われます。対戦相手は勝利扱いとなります。

さらに、UWWの医師が選手が対戦を回避する目的でけがを装っていることを証明した場合、その選手は失格（Disqualified）扱いとなり、最下位・ランクなしで"Dsq"と記録されます。

第12条－試合開始および再開時のポジション

試合開始および中断後の再開時には、両選手はリング中央で向かい合い、立ち姿勢（ニュートラルポジション）をとります。審判のホイッスルの合図で試合が開始・再開されます。

第13条－技および動作に対する得点

【1点が与えられる場合】

相手の手以外の身体の一部が地面についた場合

- ・ 相手の手以外の身体の一部が地面についた場合
- ・ 相手を競技エリアの外に出した場合
- ・ 相手が反則によりコーションを受けた場合
- ・ 30秒のアクティビティ時間中、パッシブとされた選手が得点できなかった場合
- ・ チャレンジによって元の判定が維持された場合（チャレンジ失敗）

※注：技の実行中に、攻撃側（アタッカー）のみが片膝を地面につけることは認められます。ただし、その技が最終的に相手を地面に倒すものであることが条件です。

【3点が与えられる場合】

- ・ テイクダウンや投げ技により、相手の背中を地面にさらした場合

第 14 条－負傷および出血時間

審判は、偶発的な接触（例：目への指の接触、頭部の衝突など）によって一時的に負傷した選手が出た場合、試合を中断し、負傷処置の時間を認めなければなりません。中断時間は、1 試合あたり選手 1 人につき最大 4 分までとされ、それを超えるとその選手は負傷による敗北となります（INJ 負け）。

出血があった場合、審判は試合を中断し、大会ドクターによる治療介入を求めます。出血している選手は競技エリア外に出て治療を受ける必要があります。大会ドクターの机には、消毒液および清掃用具を常備しておく必要があります。ドクターが出血の停止および安全性を確認し、続行可能と判断した場合のみ、試合を再開できます。ユニフォームが血で汚れた場合や破れた場合に備え、すべての選手が予備のユニフォームを自身のコーナーに準備しておく必要があります。

負傷により試合を続けられなくなった場合、その試合は負傷敗（INJ）として記録されます。この場合、当該選手は 2 日目の計量を受ける必要はありません。最終順位は負傷前までに獲得したポイントに基づいて決定されます。次の試合に出場したい場合は、UWW ドクターの承認が必要です。

選手が大会中に負傷した場合、競技初日の終了から 1 時間以内に UWW ドクターへその旨を申告する必要があります。一方、大会外で発生した怪我や病気については、2 日目の計量に出席しないと棄権扱いとなり、順位なし・最下位（ランク外）とされます。

第 15 条－試合の中断

何らかの理由（審判の協議など）で試合が中断された場合、両選手はリング中央に立ち、審判テーブルの方向を向いて待機しなければなりません。その間、誰とも話してはならず、水分補給も禁止されています。審判が呼び戻し、再開の合図を出すまで静かに待機する必要があります。

第 16 条－試合の終了

試合は、先に 3 ポイントを獲得した選手が勝利となります。試合終了時に同点の場合、以下の優先順位で勝者を決定します：

- ・最後にポイントを取った選手
- ・計量時の体重が軽い選手（※その日の公式計量による）
- ・抽選で引いた番号が小さい選手

●フェアプレー違反と失格

UWW が定める「レスリングの理念および普遍的な精神」に明確に反する反スポーツ的行為（不正・重大な過失・暴力的行為など）を行った選手は、即時に大会から失格・除外されます。この選手は最下位（ランクなし）とされ、記録上に「Dsq（失格）」の記載がなされます。

●試合中に 2 名が同時に失格となった場合

同じ試合中に 2 名の選手が暴力行為などで同時に失格となった場合、両者とも上記と同様に大会から除外・最下位・ランクなしとされます。この 2 名と対戦予定であった選手は、不戦勝（forfeit）として勝利となります。

●セミファイナルでの失格・棄権の場合

もし2名のセミファイナリストが暴力行為または棄権で失格となった場合、その後の決勝（1-2位）および3位決定戦は実施されず、対戦予定の選手が不戦勝となります。

●両者負傷（ダブルインジャリー：2VIN）の場合

1 試合中に両者が同時に負傷し継続不可となった場合、次の対戦予定選手は不戦勝（injury win）となります。

●そのダブルインジャリーがセミファイナルやメダルマッチ（決勝・3位決定戦）で発生した場合は、以下のように順位を決定します：

1, 試合中、どちらかがリードしていた場合

→ リードしていた選手が金メダル戦に進出し、負傷により敗北（INJ）。

→ 相手は銅メダル戦に進出し、負傷により敗北（INJ）。

2, 試合が同点で終了した場合

→ 「第7条：競技方式・順位決定基準」に基づいて勝者を決定し、上記と同様の処理を行います。

●決勝戦（1-2位戦）または3位決定戦（3-4位戦）で失格または棄権が発生した場合、下位にランクされた選手が繰り上がり、失格・棄権した選手に代わって順位を得ます。

すべての種類の不戦敗（forfeit）については、その選手は大会最下位・ランクなしとして記録されます。

第17条－勝利の種類（勝ち点）

	勝敗の内容	勝者ポイント	敗者ポイント
VFA	3点のテイクダウンまたは投げによる勝利 (敗者が無得点)	4点	0点
VFA1	3点のテイクダウンまたは投げによる勝利 (敗者が得点あり)	4点	1点
VSU	3点での勝利 (3点のテイクダウンまたは投げを含まない、敗者無得点)	2点	0点
VSU1	3点での勝利 (3点のテイクダウンまたは投げを含まない、敗者得点あり)	2点	1点
VPO	3点未満の得点での勝利	1点	0点
VFO	不戦勝 (相手が試合に現れなかった場合など)	2点	0点
2VFO	両者不戦敗	0点	0点
DSQ	相手の失格による勝利	4点	0点
2DSQ	両者失格	0点	0点
VIN	相手の負傷による勝利	1点	0点
2VIN	両者負傷により続行不能	0点	0点
VCA	相手の3回の注意 (コーション) による勝利	2点	0点

第18条ーチャレンジ制度

チャレンジとは、選手が判定に異議がある場合に、試合を一時停止してビデオ判定を要請する手続きです。これは単なる抗議としてではなく、理由のある異議申立てでなければならず、単なる抗議として行われた場合、その選手にはコーションが与えられ、対戦相手に1点が加算されます。

この制度は、UWW および大会組織委員会により公式にビデオ判定システムが設置されている大会でのみ適用されます。

選手は、判定が下された直後に「チャレンジ」と声に出してレフェリーに申し出なければなりません。レフェリーは、ニュートラルな状態になった時点で試合を中断し、ビデオ判定を行います。

主催者は、UWW の大会管理システムを使用し、ビデオを全会場から見える大型スクリーン（各マット最低1台）に映す義務があります。

重大な技術的トラブルによりビデオ再確認ができない場合は、元の判定がそのまま適用され、チャレンジ権は保持されます。

具体的な回数

各選手には大会ごとに最大2回のチャレンジ権が与えられます。

- 1回目：グループステージおよびトーナメント
- 2回目：メダルマッチ

チャレンジの結果：判定が覆った場合は、チャレンジ権は消費されず再び使用可能です。判定が維持された場合は、チャレンジ権を失い、対戦相手に1点が加算されます。

審判団がチャレンジを拒否する場合、審判長（または代理人）の承認が必要です。審判は個人的な判断でチャレンジを拒否することはできません。

消極的レスリング（ネガティブレスリング）に対する警告については、チャレンジを申請することはできません。

試合の正規時間が終了した後は、チャレンジを申請することはできません。ただし、レフェリーのホイッスルの後に得点が加算された場合や、時間終了直前にアクションが発生した場合は例外です。チャレンジは、試合が再開される前、またはアクションが時間終了間際に発生した場合は、その判定が下された直後に申請しなければなりません。

アクションの映像を確認し、レフェリングチームと協議した後、審判長（または代理人）が最終的な判断を下します。審判長はすべてのケースにおいて介入し、判断を下す義務があります。その決定は最終的なものであり、異議を唱えることはできません。

一度最終決定が下された後に「カウンターチャレンジ」（再チャレンジ）を申請することはできません。

審判長（または代理人）が、試合結果の公正性に重大な影響を及ぼす可能性のある誤審を確認した場合、該当するアクションに対してVAR（ビデオ分析レビュー）を申請する権利を持ちます。このVARの申請は、マルチスポーツ大会、ビーチレスリング・ワールドシリーズ、世界選手権および大陸選手権（すべての年代）においては、テクニカル・デリゲートの承認が必要です（※最終判定そのものではなく、VARの申請に対しての承認）。

第5章：反則行為

第19条－消極的レスリングおよび反則

すべての反則行為は主審（センターレフェリー）の権限に基づきます。もし選手がUWW倫理規程に対して著しくスポーツマンシップに反する行為を行った場合、主審は大会責任者の同意を得て、その選手を試合または大会から失格とすることができます。

反則があった場合、相手選手に1点が与えられます。1試合中に3点分のコーション（＝3回の反則）が与えられると、その時点で試合終了となります。

【反則行為に該当するもの】

- ・ 関節脱臼を引き起こすホールド
- ・ 首をひねる行為（ネッククランク）
- ・ 噛みつき、パンチ、キック、頭突き、悪意あるクロスフェイス
- ・ 目・耳・鼻への攻撃、フィッシュフック（口角を指で引っ張る）
- ・ 髪、鼻、耳を引っ張る行為、または股間を攻撃する行為
- ・ 頭や首に投げ落とすスタンディングスロー（スパイク）
- ・ 肌に油分や滑りやすい物質を塗布する行為
- ・ 試合を止める、あるいは正当な理由なく競技エリアを離れる行為
- ・ 負傷のふり（シミュレーション）

【ネガティブ・レスリング（消極的なレスリング）】

スコアが0-0で以下のような行為が見られる場合、主審は選手を「ネガティブ」と判定します：

- ・ 相手の攻撃をブロックし続ける行為
- ・ 頭を下げたまま胸に押し付け続ける
- ・ 指を絡めてロックする
- ・ 攻撃を避けてカウンターも仕掛けない
- ・ 相手の手首だけを掴み、技を仕掛けない
- ・ 相手と接触せずに形だけの攻撃を見せる
- ・ 攻撃を仕掛けた直後に元の体勢に戻る
- ・ フェイクアタック（本気でない攻撃）
- ・ 有利な位置にいるにも関わらず、組み合おうとしない
- ・ 上体を起こさないでオープンな攻防を避ける

【ネガティブ行為に対する処置】

初回は試合を止めて口頭での警告（アテンション）を与えます。2回目以降は、試合を止めて消極的な選手を明示し、30秒間の強制アクティビティ（得点義務）期間に入ります。主審は、有効な攻撃が進行中の時にはアクティビティ期間を始めてはいけません。該当選手側のランプが点灯し、選手・コーチ・観客にアクティビティ期間の開始を通知します。この間に得点できなければ、相手選手に1点が与えられます。

試合が開始から1分30秒経過してもどちらの選手も得点していない（0-0）場合、主審は必ずどちらかの選手を「非アクティブ（消極的）」と判断し、上記の30秒ルールを適用します。

第 6 章：審判団

第 20 条－構成

すべての試合は主審と技術記録員により裁かれます。

主要大会においては、同国籍の審判が同一試合を担当することは認められません。

第 21 条－服装

主審および技術記録員は、白いショートパンツと赤い UWW レフェリーポロシャツ（もしくは UWW 黒ポロ）を着用します。また、ホイッスルを首にかけて着用します。

第 22 条－全般的な任務

審判団は、本規則および特定の大会の運営に関して定められた特別な規定に基づくすべての職務を遂行しなければなりません。主審は、試合を運営する際に、UWW の基本用語およびジェスチャーを適切に使用することが求められます。主審の主な職務は、試合の開始および中断、ポイントの付与、ペナルティの適用を行い、正当な勝者および敗者を決定することです。

試合終了後、主審および技術記録員はスコアシートに署名しなければなりません。

第 23 条－主審（センターレフリー）

主審は、公式の UWW ルールに従い、試合が秩序正しく進行されるよう責任を持って指導を行います。選手からの敬意を得るとともに、即座に命令や指示に従わせる権限を持ちます。また、不正行為や外部からの干渉を一切許すことなく、試合を進行しなければなりません。アクションが決まった後は、得点した選手の色に対応する手を挙げてポイントを示します。

主審の判断が最優先されますが、疑義が生じた場合には技術記録係（テクニカルセクレタリー）と協議することができます。合意に至らない場合は、大会を担当する審判委員（レフェリーデリゲート）が最終決定を下します。

主審は、アクションがグラウンドで終了した場合や勝者を宣言する際には試合を停止し、選手をリング中央に戻さなければなりません。また、試合結果が発表されるまで選手が競技エリア内にとどまるよう管理する責任もあります。

第 24 条－技術記録員（テクニカルセクレタリー）

技術記録員は、試合の進行を細部まで注意深く追ひ、いかなる形でも気を逸らしてはなりません。各アクションの後、主審の指示に基づき、対応するポイントをスコアシートに記入します。

技術記録員の主な任務：

- ・スコアシートの記入
- ・主審との連携
- ・試合のアナウンスの管理
- ・スコアシートへの署名

第7章：医療サービス

UWW 公認大会の主催者は、医療サービスを提供する責任を負います。医療スタッフは担当スポーツドクターの指揮下に置かれ、大会期間中すべての医療検査の実施および医療監視を担います。競技中は、事故や負傷が発生した際に迅速に対応し、選手が競技を継続可能かどうかを判断する態勢を整えておく必要があります。

大会責任医師（ヘッドメディカルオフィサー）は、選手の安全を考慮し、必要と判断した場合には、いつでも試合を中断する権限を有します。また、選手が医療的に競技を続行できないと判断した場合にも、試合を止めることができます。重大な負傷が発生した場合、選手はリング外に出るはならず、主審は直ちに試合を停止し、会場内で大会責任医師による診察を依頼しなければなりません。

第25条 – アンチ・ドーピングおよび衛生基準

UWW 公認大会に参加するすべての選手は、UWW アンチ・ドーピング規程および、世界アンチ・ドーピング規程（WADA コード）に従うことに同意するものとします。

最終規定

本規則は UWW によって承認されたものであり、必要に応じて改善のために随時改訂される可能性があります。

本規則の解釈および適用に関して紛争が生じた場合は、英語版が優先されるものとします。

ビーチレスリングの出場選手は、いかなる紛争も民事裁判に持ち込まないことに同意します。すべての異議申し立ては、まずビーチレスリング委員会によって処理され、上訴機関として UWW 執行委員会が対応します。もし解決が得られない場合は、当事者は自己負担でスイス・ローザンヌのスポーツ仲裁裁判所（CAS）に訴えることができます。

コルシエ・シュル・ヴヴェイ（スイス）

2025 年 1 月 / Jdr

付録 1－組合せと競技方式

出場人数に応じてグループ分けとトーナメント方式が異なります（6～24名）。

順位決定方法、準々決勝・準決勝・決勝進出者の選定方式などの詳細は本付録に示されています。

例：8人＝2グループ×4人、24人＝6グループ×4人→準々決勝進出など

Group stage

		Round 1		Round 2		Round 3		Classification		
		Man	Country	Man	Country	Man	Country	Rank	Country	Name
Group A		1		1		1		1 st		
		12		13		24		2 nd		
		13		12		12		3 rd		
		24		24		13		4 th		
Group B		2		2		2		1 st		
		11		14		23		2 nd		
		14		11		11		3 rd		
		23		23		14		4 th		
Group C		3		3		3		1 st		
		10		15		22		2 nd		
		15		10		10		3 rd		
		22		22		15		4 th		

Group stage

Group D	Round 1			Round 2			Round 3			Classification		
	Man	Country		Man	Country		Man	Country		Rank	Country	Name
	4			4			4			1 st		
	9			16			21			2 nd		
	16			9			9			3 rd		
	21			21			16			4 th		

Group E	Round 1			Round 2			Round 3			Classification		
	Man	Country		Man	Country		Man	Country		Rank	Country	Name
	5			5			5			1 st		
	8			17			20			2 nd		
	17			8			8			3 rd		
	20			20			17			4 th		

Group F	Round 1			Round 2			Round 3			Classification		
	Man	Country		Man	Country		Man	Country		Rank	Country	Name
	6			6			6			1 st		
	7			18			19			2 nd		
	18			7			7			3 rd		
	19			19			18			4 th		

20名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、6グループではなく5グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B	Group C	Group D	Group E
1	2	3	4	5
10	9	8	7	6
11	12	13	14	15
20	19	18	17	16

16名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、4グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B	Group C	Group D
1	2	3	4
8	7	6	5
9	10	11	12
16	15	14	13

12名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、3グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B	Group C
1	2	3
6	5	4
7	8	9
12	11	10

8名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、2グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B
1	2
4	3
5	6
8	7

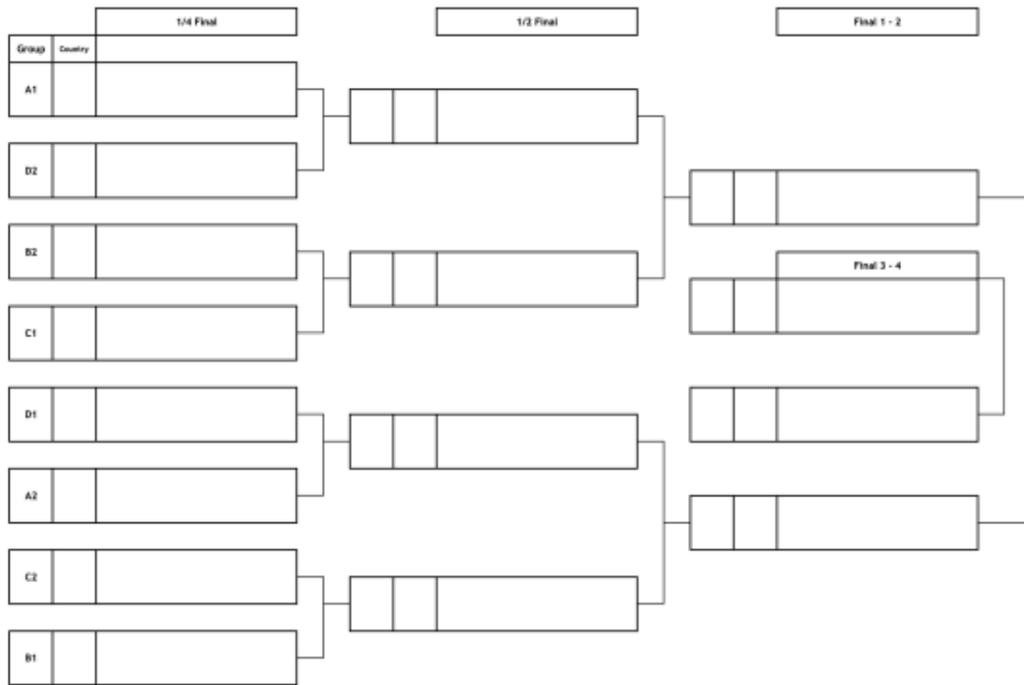
7名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、2グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B
1	2
4	3
5	6
-----	7

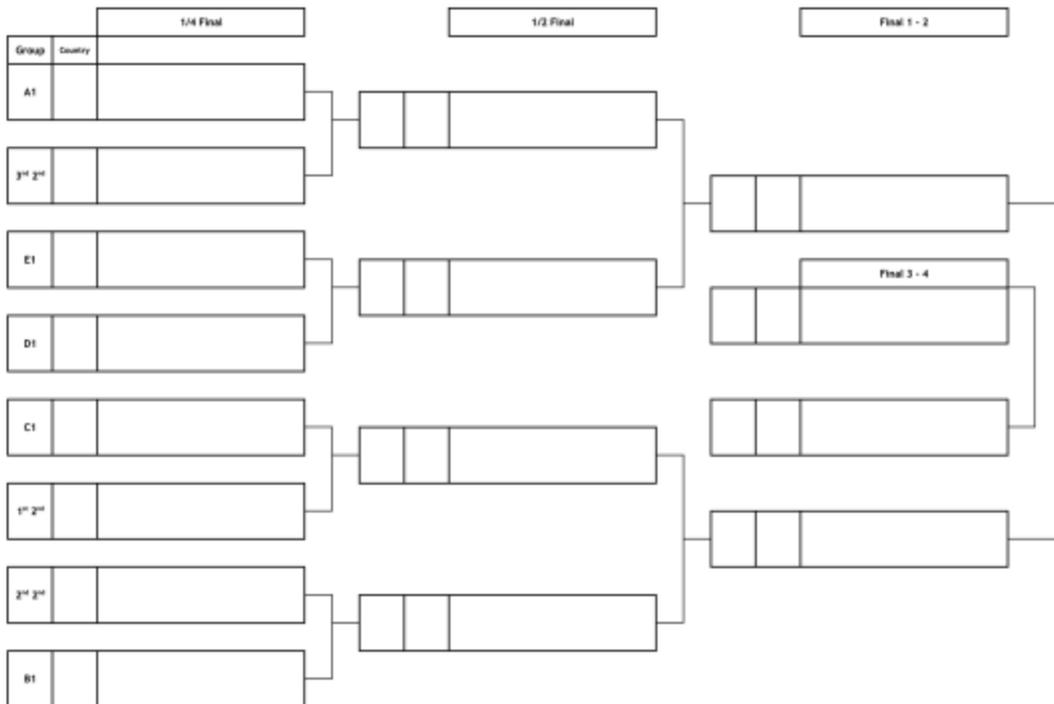
6名の選手が出場する場合、シード選手の配置は同様に、2グループで構成され、次のようになる：

Group A	Group B
1	2
4	3
5	6

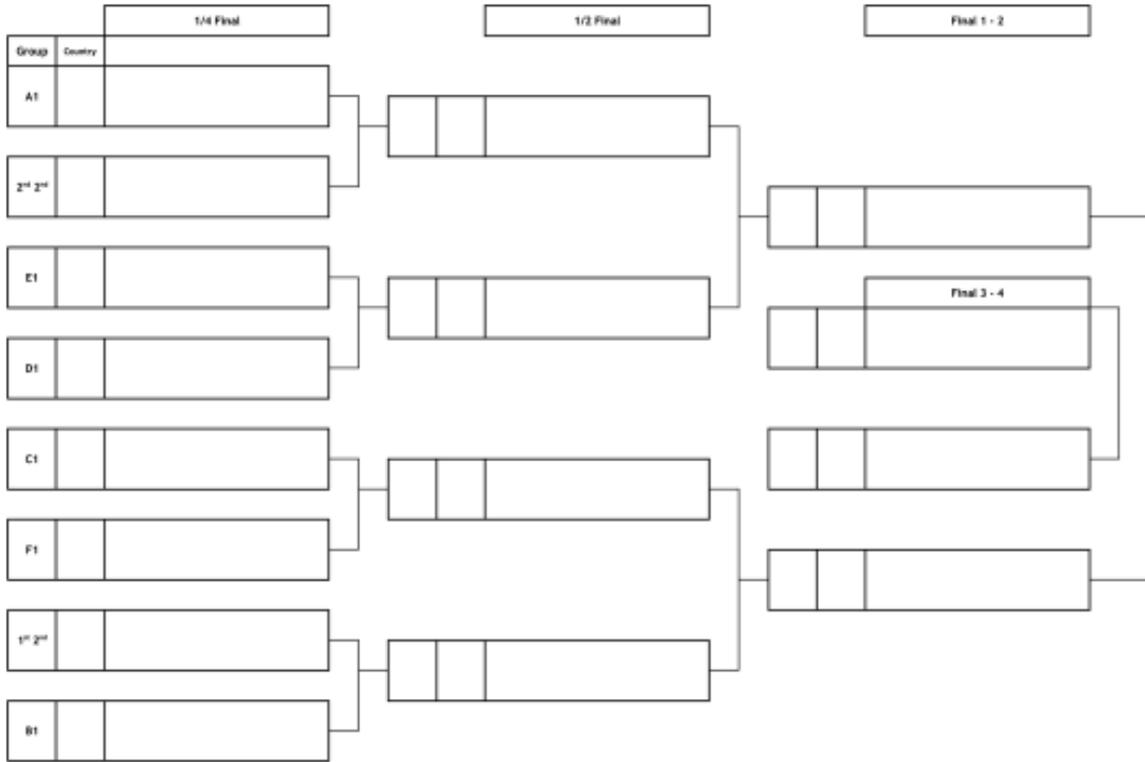
Elimination stage (16 athletes)



Elimination stage (20 athletes)



Elimination stage (24 athletes)



付録2 – 競技スケジュール

※競技スケジュールに関する注意事項：このスケジュールのセッション時間は、現時点で予想される参加選手数に基づいて設定されていますが、変更となる場合があります。

日	曜日	セッション	時間	種目
1日目	金曜日	午前	10:00~13:00	予選 R1 (第1ラウンド) 女子：50kg、60kg、70kg、+70kg 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
				予選 R2 (第2ラウンド) 女子：50kg、60kg、70kg、+70kg 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
		午後	15:00~18:00	予選 R3 (第3ラウンド) 女子：50kg、60kg、70kg 予選 R3 (第3ラウンド) 女子：+70kg 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
2日目	土曜日	午前	10:00~13:00	準々決勝・準決勝 (Elimination Stage) 女子：50kg、60kg、70kg、+70kg 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
				決勝 (Finals：1位-2位 & 3位-4位) 女子：50kg、60kg、70kg、+70kg 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
		午後	15:00~18:00	表彰式 (Medal Ceremony)

略語の説明

- R1 / R2 / R3：グループステージ (第1~第3ラウンド)
- E：エリミネーションステージ (準々決勝・準決勝)
- F：決勝戦 (1位決定戦および3位決定戦)
- MC：メダルセレモニー (表彰式)
- M：男子
- W：女子

付録3 – 他の年齢区分および競技システム

A. 他の年齢区分における年齢および体重カテゴリー（男子・女子）

すべての出場者は、自身の年齢および国籍を証明するパスポートを提示できなければなりません。指定された年齢区分より下のカテゴリーで出場していることが判明した選手は、その大会から自動的に失格となります。

各ナショナルレスリング連盟は、1つの体重カテゴリーにつき最大3名の選手を出場させることができます。

U15（14～15歳*）

- 男子：45kg、50kg、55kg、60kg、65kg、75kg
- 女子：40kg、45kg、50kg、55kg、60kg、65kg

U17（16～17歳）

- 男子：60kg、70kg、80kg、90kg
- **女子：45kg、55kg、65kg、75kg**

U20（18～20歳*）

- 男子：70kg、80kg、90kg、+90kg
- 女子：50kg、60kg、70kg、+70kg

* U15 カテゴリーは13歳から出場可能（医師および保護者の承諾書が必要）

U17 カテゴリーは15歳から出場可能（医師および保護者の承諾書が必要）

* U20 カテゴリーは17歳から出場可能（医師および保護者の承諾書が必要）

医師および保護者の承諾書は、「年間医療証明書および選手の誓約書」として Athena システム内で UWW ライセンス購入時に提出されます。

B. その他の大会における競技システム

すべてのビーチレスリング大会において、同一の競技システムが使用されなければなりません。



BEACH WRESTLING

WORLD SERIES



UNITED WORLD
WRESTLING

RUE DU CHÂTEAU, 6, 1804 CORSIER-SUR-VEVEY, SWITZERLAND

T. 0041 21 312 84 26 F. 0041 21 312 84 27 UNITEDWORLDWRESTLING.ORG